

田中康夫

今月の憂いコト

川端龍子の会場芸術から、
秋篠宮とローラの発言、
1979年に始まった
グローバル資本主義の行く末まで。

東京・大田区の『大田区立龍子記念館』を訪れた田中・浅田両氏。
川端龍子自身が設計した自邸や画室、庭を見て歩きながら、
館内では「会場芸術」と呼ばれる龍子の巨大な日本画を鑑賞。
近代日本画に革新を起こした画業を振り返った。

一方で、いまだ「革新」がなされないまま、
グローバル資本主義の荒波に呑み込まれている日本の現状を憂えた。

photographs by Hiroshi Takeoka text by Kentaro Matsui

浅田彰

憂



憂国呆談

season 2 VOLUME 104



れないのは何故なんだ？「ことほぐ」と振り仮名がないと誤読しちゃうじゃない「言祝ぐ」

なあんで単語を使って、「ご退位とご即位を国民挙つてお祝いするゴールデンウィークとなりそうですわ」と述べた次のコーナーで、すでに10連休は羽田、成田発着の海外旅行ツアーが満員御礼状態などと平然とレポートする報道機関は不敬罪だと「みんな靖国神社に参拝する国会議員の会」は言うべきでしょ（苦笑）。

浅田 その靖国神社だって明治時代につくられたもの。本来、打ち負かした敵が祟るのを恐れて神として祀るのが日本の伝統なのに、天皇の側で戦った戦死者だけ祀ってるのはおかしいって、最近亡くなった梅原猛も言った。西南戦争で賊軍となった西郷隆盛だって祀られてないんだから。

田中 靖国神社の宮司だった小堀邦夫が「今上陛下は靖国神社をつぶそうとして一問題発言で退任したけれど、政治学者の白井聡の分析が鋭かった。すべての戦死者の霊は靖国に戻ってきているという虚構に対して、今上天皇は皇后と共に海外の戦地にまで慰霊に向かい、親の代の罪を贖おうとしていて、その場合、霊は戦地にいることとなり、天皇は身を挺して靖国の正当性を問うているのだと危機感を抱いた。実に乱暴で幼稚な小堀の発言だけど、まさにそうだと思うよ。被災地にも足を運び続けた30年の「祈りの旅」に、国民の多くは少なからず感銘を受けているからね。

ところが、生前退位を巡って官邸が設けた「有識者会議」のヒアリングで「天皇は宮中で祈っているだけでよい」と述べたよ

うなエセ「保守派」は今回も上から目線で、政治的な発言をする秋篠宮は怪しからんと不謹慎にも愚痴つてるらしい。

浅田 むしろ天皇家の祭祀に国家予算を使わないことで政教分離を徹底するって正論なのにね。

田中 それにしても、救急以外の外来診療が休診となる医療機関の現場も、前代未聞の10連休となる東京証券取引所も大丈夫なのか。株価がすべての経済指標に優先する政治を7年以上も続けてきた日本は、海外の株式市場で「リーマン・ショック級」の乱高下が起きてても対応不可能なんだよ。皇室を「政治利用」してるのは一体、誰なんだと諷刺したいね。辺野古埋め立て問題に関してローラがインスタグラムでホワイトハウスへの請願署名を呼びかけたら、タレントが政治的な発言をするな、CMから降板させてやる、と脅す連中がSNSにワラワラ沸いてきたけど、クイーンズのブライアン・メイも呼びかけたら途端に沈黙しちゃって、逆に意気地なしのチキン呼ばわりされる羽目に陥った。国民の生活が第一」と小沢一郎が唱えてた時期があったから「生活」という単語に手垢が付いちゃってるけど、すべての物事は政治的なんだから、政治が特別と考えるほ

うがおかしいわがだ。
2月24日が投

「思いやり予算」まで出してるんだから、米軍地位協定の改定も含め、言うべきこととは言うってのが、正しいナシヨナリズムでは？（浅田）



田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。http://tanakayasuo.me

票日の「辺野古米軍基地建設のための埋め立ての賛否を問う県民投票」に不参加を表明している（1月23日現在）、普天間基地の地元の宜野湾市、沖縄市、うるま市、石垣市、宮古島の5市長は、多数決という「民主主義」の手続きを経て県議会が設けた条例に基づく投票で、辺野古沖合への移設反対票が上回るのが悔しいという駄々っ子に過ぎない。とはいえ、膠着状態が続く辺野古問題の具体的解決に向け、「ささやかだけど、たしかなこと」としての一步は踏み出すべきでしょ。

そもそも、アメリカ海兵隊キャンプ・シユワブの沖合を埋め立てる計画は津波と高潮の課題を抱えうえに、普天間基地の38パーセントのキャパシティしかないんだよ。滑走路の本数こそ2本に増えるけど、どちらも1800メートル。2700メートルの普天間よりも短いからアメリカ政府監査院（GAO）は、有事には那覇空港を活用するしかない、と報告書を出している。

浅田 だったら嘉手納基地との合併案がある。嘉手納は空軍基地で、海兵隊は別の基地が欲しいって、それは米軍内部の事情でしょう。「思いやり予算」まで出してるんだから、米軍地位協定の改定も含め、言うべきことは言う

てのが、正しいナシヨナリズムじゃないの？

田中 まったくだ。青森県には防衛省が設置し、日米地位協定第3条に基づき米軍が管理し、航空自衛隊と米空

軍が共用する三沢空港があって、しかも国土交通省が設置・管理する航空ターミナルには

東亜国内航空、日本エアシステムを経て日本航空が離発着し続けている。海兵隊と空軍の「縦割り行政」を超えて、3700メートル滑走路2本の嘉手納の「共用」を外交交渉するのが同盟国ニッポンの仕事だよ。

日産事件にIWCC脱退。日本は世界の駄々っ子？

浅田 『すべては1979年から始まった——21世紀を方向づけた反逆者たち』（草思社）って本がある。著者のクリスチャン・カレルはジャーナリストで、深い分析には欠けるものの、長期的な変動の始まりを40年前の79年に見る視点はおもしろい。

まず、マーガレット・サッチャーがイギリス首相になり新自由主義を打ち出す。80年代にアメリカのロナルド・レーガン大統領や日本の中曽根康弘首相がそれに追随するわけ。他方、中国では77年に文化大革命が終わり、78年の暮れに鄧小平が市場経済を導入する改革開放を提唱、建国30周年にあたる79年から本格的に始動する。それらが現在のグローバル資本主義につながるわけ。ちなみに、エズラ・ヴォーゲルの『ジャパン・アズ・ナンバーワン』が出たのも79年。

次に、79年はソ連がアフガニスタンに軍事介入を始めた年で、それが89年の撤退まで長引き、ソ連崩壊の引き金の一つになる。同時に、ヨハネ・パウロ2世が故国ポーランドを訪問し、アメリカのCIAとも通じて、東欧民主化への動きをプッシュする。



